

令和3年度 高志中学校1年 文学館・文書館研修

- 1 期 日 11月11日(木)
- 2 目 的 福井県ふるさと文学館・文書館を訪問し、福井ゆかりの文人たちの映像視聴や文書館における歴史史料の調べ方などの研修を受けることで、自分の設定した「福井の歴史(とき)」の探究活動内容を深めるとともに、生徒それぞれの「ふるさと福井」に対する関心を高める。
- 3 場 所 福井県ふるさと文学館・文書館
- 4 参加生徒 87名

5 報 告

◆福井県ふるさと文学館

福井県ふるさと文学館では、三好達治や加古里子などの福井県ゆかりの作家を小説、評論などのジャンルごとに紹介するコーナーや文学作品に登場する県内の文学スポットを紹介するコーナーで説明を受けました。現在は大野市を舞台にした高校男子バレーボール部の活躍を描く小説「2.43」の特集が行われており、物語の中で越美北線や9.98 スタジアムなど福井県が描かれていることやアニメーションの原画は鉛筆を使って人の手で行われていることが分かりました。

また、特別展『山があるから』(深田久弥没後50年記念展)では、深田が愛用した地図や万年筆などの展示や実際に登った山の情景について書かれた作品が展示されていました。荒島岳や青葉山などの福井県の山々とそれを描いた文学作品についての映像を視聴し、山が人々にとって歴史的に大きな価値を持つことや山に魅了された人々の思いについて知ることができました。

[生徒の感想]

福井県は他の県と比べてゆかりの作家が多く、芥川賞や直木賞を受賞している人も多いことが分かりました。特別展では外の空気が入らないようにしたり、光で作品が傷まないように室内を暗くしたりして工夫がされていました。登山家の人たちは地元の山々に登りながら、ヒマラヤに憧れを持っていたことが分かりました。

◆福井県文書館

福井県文書館では、文書館が保存している県などの「公文書」と江戸時代以前の歴史的な文書である「古文書」についてや文書をデジタルで閲覧できるデジタル歴史情報についての説明を受けました。また、『解体新書』や高志中高の生徒会誌である『緑葉』の創刊号などを見させていただきました。

文書を保存する書庫では、外気が入らないように通路との間に前室があること、書庫内は窓がなく、一定の温度と湿度に保たれていることなど、文書を保存するための工夫について教えていただきました。

[生徒の感想]

結城秀康が豊臣秀吉の養子で徳川家康の子であり、初代福井藩主だったことがよく分かりました。『緑葉』の創刊号があり、驚きました。

デジタル歴史情報を使うと、自宅でも文書館の史料を閲覧することができるので、便利だと思いました。燻蒸室では二酸化炭素を充満させて害虫を退治したり、書棚は1番下に何も置かず、水害に備えたりしていて、文書を保存する工夫が分かりました。

[福井県ふるさと文学館]



[福井県文書館]

～第4書庫～



～閲覧室～

